青葉通仙台駅前エリア社会実験
開催実施レポート

「MOVE MOVE」って、どうだったの？

2023年9月発行／11月改訂

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会
将来ビジョン検討事務局

本実験の目的と検証した目線

青葉通駅前エリアの将来ビジョン検討に活かすため18日間の社会実験を行いました。

　将来の青葉通駅前エリアがどんな姿になるとよいか。このエリアが将来も仙台の顔として多くの人を惹きつけ、他のエリアへと回遊の起点となるためには、将来ビジョンの検討が必要です。ビジョンの検討に向け、道路空間利活用の効果や交通への影響及び都心における回遊の創出検証を行うため、2022年9月23日(金) ～10月10日(月)の18日間で社会実験を開催しました。開催にあたってはエリアづくりに関する「3つの視点（後述）」を設定。これらに紐づく項目の検証結果からビジョンを具体化していく想定で社会実験の開催～効果検証を進めました。

あり方検討の実施体制や協議会の起こり

青葉通駅前エリアのあり方検討の実施体制

仙台市

将来ビジョン策定に向けて、社会実験の検証結果・課題等を協議会等へフィードバック

↑ **提案、意見**

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 産 官 学 民

将来ビジョンの策定、整備方針・整備計画の検討

交通WG 産 官

・社会実験実施に向けた交通関係の検討
・将来ビジョンの検討、議論　作成後は整備方針、整備計画案の検討

利活用WG 産 官 民

・現状及び将来の姿を議論
・社会実験の企画、運営等の実施
・求められる機能、空間の検討
・将来ビジョンの検討、議論　作成後は整備方針、整備計画案の検討⇒
・将来ビジョン等を踏まえた管理運営体制の検討

※WG……ワーキンググループ

社会実験準備事務局 産 官 学 民

3つの視点を踏まえ、2022年度の社会実験の開催に向けて、実務的な役割を担う
（2023年からはビジョン検討事務局へ）

・ブランディング
・ビジュアル、空間のデザイン
・告知、プロモーション
・コンテンツ、開催プログラムの取りまとめ
・開催時の効果検証

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会は以下の背景から、このエリアを中心とした公共空間のあり方を官民が連携して検討するために生まれました。

- **青葉通駅前エリアにおける開発機運の高まり**
- **青葉通まちづくり協議会から 「まちづくりビジョン」の提言**
- **ストリートをクルマ中心から 「人中心」の空間へ転換 （まちなかウォーカブル推進）**
- **都心再構築プロジェクトや新総合計画 などによる新たなまちづくりの始動**
- **東日本大震災を踏まえた防災対応力の向上**

ビジョンづくりに向けて検証した「3つの視点」

※協議会やWGでの議論から定まったもの

視点1／仙台の顔としてのエリア
「顔(らしさ)」を浮かび上がらせる

・このエリアや仙台の個性や強みを活かしながら、様々な人がこのエリアに行きたくなり、訪れる人に仙台の第一印象として好印象を与える、市民が誇れるエリアにすることができるか。

・エントランスの役割として、他エリア(東北、仙台市内、都心各エリア)へ導くことができるか。

視点2／多様な活動があふれる人中心のエリア
「多様」を収集・分類化

・楽しみ、ワクワク感、居心地の良さ、暖かみ、安心感、魅力的、刺激的な経験といった訪れる人の感情や活動を生み出し、様々な人が惹きつけられるエリアにできるか。

・人との交流や出会いによって、イノベーションが生まれるエリアとすることができるか。

「仙台たき火ティー」による焚き火には
偶然立ち寄った人、県外から訪れた人の姿も

視点3 ／エリア価値向上のために挑戦するエリア
「能動的」な活動・認識を収集

・新たな魅力を生み出すことや、社会の変化に応じて変えていくことなど、このエリアにかかわる多様な主体がエリア価値向上のためにビジョンを共有し、挑戦するような流れを生むことができるか。

本実験で掲げたコンセプトについて

もし、青葉通仙台駅前が、
仙台の心臓だったら。

このエリアのひととなりを見出し、新しい流れを生む。

様々なひとが出会い、交流するきっかけをつくることで、このエリアが仙台の顔として活気にあふれるまちになり、仙台、東北の新しい流れを生み出す。

「ひととなり」……人柄・人物・人格・器量・度量・器・品性など(「デジタル大辞泉」より引用)

「仙台の顔」ってどんな顔？「多様な活動があふれる人中心のエリア」って、誰の、どんな活動？それを検証し、明らかにしていくのが社会実験の目的でした。

「ひととなり」という言葉は、通常まちに対しては使いません。人にも性格があるように「まちにも表情があるのでは」と捉えて生まれた言葉と、青葉通駅前エリアに行き交う人々が出会い、交流していくことで、　　「ひとの流れをつくる中枢・心臓のような場所になりうる」という仮定をもとに紡がれたコンセプトです。

協議～社会実験開催、開催後のこれから

2021年	実施体制組成、複数回に渡る協議会、開催
2022年	協議会やWGでの議論を経て、社会実験開催準備
2022年	社会実験の開催および効果検証
2023年	検証結果の深堀、整理からビジョン案を作成
2024年 (予定)	将来ビジョンの策定へ 持続的に実施・運営していく担い手の発掘・育成 (将来の管理運営)

※WG……ワーキンググループ

コラム：日本各地で広がる「ウォーカブル推進」と社会実験

国土交通省が推進する「ウォーカブルなまちづくり」の動きが、日本全国各地に広がっています。それに伴い、居心地がよくて歩きたくなるウォーカブルな空間づくりを検討するための社会実験も、各地で実施されています。その事例の一部をご紹介します。

◎大阪府大阪市「なんば駅周辺道路空間再編社会実験」

大阪都心部では観光都市としてのインフラ再整備が急務とされています。そこでなんば駅前では、はじめて大阪に訪れた人がワクワクできて、大阪の玄関口としてふさわしい街並みを感じられる歩行者空間を検討するため、数年にわたる検討と、社会実験が行われました。

◎他にも、店舗（民地）と歩道（公地）を横断した「憩いの場」をデザインし、滞在時間の変化などを検証した「商店街プレイスメイキング社会実験（愛媛県松山市）」など日本各地でユニークな実験・検証が行われています。

開催期間中に見られたアクティビティ

開催期間中に見られた風景、予想外のできごと

社会実験開催期間中には、想定していたことはもちろんのこと、予想外のことも起こりました。たとえば、ストリートピアノが設置されていたことで、開催期間中はプロ・アマチュア問わず道ゆく人によるピアノの演奏が多く行われました。ストリートピアノのうわさを聞いて、普段は仙台駅前に来ない高校生がギターを背負って演奏へ。ストリートミュージシャンが飛び入り参加し、その場でセッションが起こり、道行く人から拍手。このセクションでは、そんな開催期間中に生まれた風景やアクティビティについて一部紹介していきます。

来場者、参加者と周辺店舗

多様な参加者、来場者

63団体が関わり、開催中は交流を生み出すような体験型のコンテンツが数多く立ち並びました。社会実験に関するアンケートでは回答者・来訪者ともに10〜30代が過半数※。学生、会社員を始め様々な属性の方の来訪が見られました。

※非来訪者含む

周辺店舗で見られた効果

このエリア沿道の一部店舗（飲食店）では、テイクアウトの増加、休日の家族連れ、若い世代（10代~30代）の来客増加・売上増加が見られました。店舗前での利活用、店舗側による時間帯に合わせたメニューの提供（昼間はランチ、飲み物、夕方以降はアルコールを含めた飲食）など、利活用空間と沿道店舗の連携により、店舗側にとってプラスの効果(売上、利用者増加)を期待できる可能性が浮かび上がりました。

時間帯別で見たアクティビティ

＜朝＞ヨガで朝活！

朝はヨガからスタート。仙台駅前ということもあり、通勤前や子供の送り迎えの後に参加できる「朝活」にぴったりなコンテンツでした。青葉通の大きなけやきの木の影が心地よく、遮るものもなく風が吹き抜けていきました。

＜昼＞遊具で遊ぶ子どもたち

「冒険あそび場」「ズレンガ体験」など、小学生以下の子どもがめいっぱい遊べるコンテンツの出展もあり、特に休日の昼間はにぎわいました。遊び場ができたというよりも、子どもたちが騒いだり泣いてもいい場所が仙台駅前にあることで、安心して過ごせた様子。車を持たない世帯が多数来場していました。

＜夕方＞仕事や宿題も捗る？

夕方にさしかかると、パソコンやノートを開いて、仕事や課題に勤しむ人々の姿もちらほら。パソコン教室帰りのご年配の方は「宿題に苦戦しているんだ！」と笑ってみせてくれました。

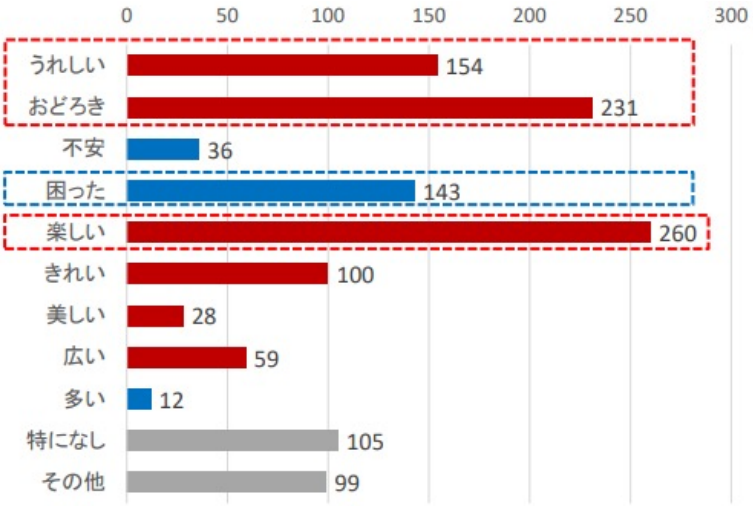
＜夜＞少し落ち着いた憩いの場

夜間は「焚き火」「社会人トーク」など、交流メインのコンテンツが。飛び入り参加者も多く、日に日ににぎわいが増していきました。一方、ベンチでくつろぐ10～20代の若者の姿もあり、青葉通仙台駅前エリアの空間じゅうにあたたかな空気が広がりました。

開催期間中に行った調査（抜粋）

社会実験期間中はWEBアンケート＆聞き取り調査、市政モニター 、ドライバーアンケート調査 、オフィスワーカーアンケートといった複数の調査を実施。結果的に1,856件もの声が集まりました（非来訪者含む）。ここでは、来訪者の声を中心に扱っていきます。

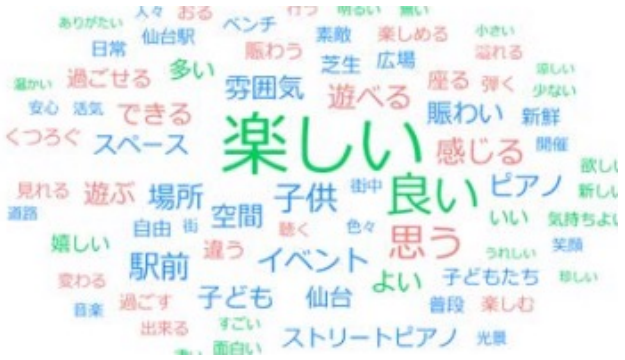
来訪者が感じた印象

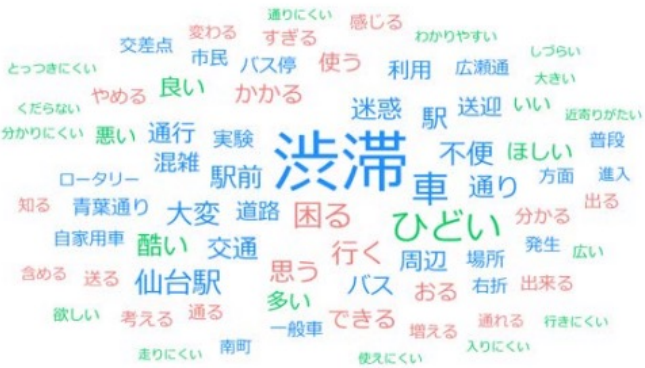


N=1,154 ※WEBアンケート、現地聞き取り調査の回答者のうち、「来訪した」と回答した人の属性（人）

「楽しい（260票）」、「うれしい（154票）」、「おどろき（231票）」

「おどろき」の理由のキーワードでは、「イベント良い」、「駅前・街中-焚火」、「おもしろい-試み」、「出来る-空間」等が多く確認でき、社会実験での試みや歩行空間の拡大が印象を与えている一方で、**「困った（143票）」**も次いで多く見られました。





あの場所で感じたこと

どう過ごせたか、感じたか

ゆっくり休めた、落ち着けた	82票
人が混雑し狭く感じた	15票
子どもを遊ばせることができた	61票
置かれているものを使っていいのかわからなくて困った	4票

空間について

自然（芝生やみどり）が感じられて気持ちがいい	67票
道路が近く、危険や不便さを感じる	10票
夜の明るさ（照明）が綺麗で良かった	11票
荷物搬入や駐車場の利用がしにくく、支障が出た	7票

音楽・雰囲気に対する人の声について

いつもと違う活気が駅前にあって楽しい・驚いた	117票
何をやっているか分かりにくかった	14票
ストリートピアノなどパフォーマンスができて楽しい	56票
音がうるさい、混乱した	4票

交通について

渋滞がひどく不便予定に遅れた 129票

バス停の場所をわかりやすくしてほしい 11票

前情報が少なかった案内不足に感じた 11票

車道をこんな形で活用できると思わなかった 23票

将来の青葉通駅前エリアに望むこと（一部抜粋）

■居心地、休憩場所

飲食店の場所や営業時間が分かりやすくなってほしい。バス乗り場は普段からとても分かりにくい。色分けとかで分かりやすくしてほしい。座れる空間は必要。

車があると怖い。いっそのこと全部歩行空間にしてほしい。まだコロナも心配だし屋外で過ごせるようにしてほしい。

仙台に来たら、休めるところあるよーそこでご飯でも食べよう！って言えればオススメ出来る。駅近くに公園がないから

子どもが遊べるところは、まちなかになかなかないので欲しい。こういうところがない限り買い物にも来ない(モールに行く)

■機能や商業的にぎわい

今の駅前には風情もないし、特徴もない。出張から帰ってきて仙台帰ってきたあ～！って印象もない。シンボル置けばいいのに。

ゴミ箱、喫煙所、プリ機が欲しい

イベントがあると良い。平日も実施してほしい

さくら野・丸光のようなお店があったらよい。潰れて寂しい。用事がないから通過するだけの場所。地下鉄は便利。バスは時間読めないから

交通規制と交通への影響

車線規制と一般車通行止め、バス停移転を実施

実験前

実験中

北側（旧さくら野百貨店側）１車線規制 ⇒ 主にバス待ち空間として利用、

南側（EDEN側）　３車線規制 ⇒ ２車線分を主に利活用空間として利用しました。

具体的には車線数の減少／一般車通行止め（路線バス・タクシーのみ通行可）　／タクシー乗り場の一時休止／ EDEN前バス停を旧さくら野前、ほうげつビル前に移転などを実施しました。

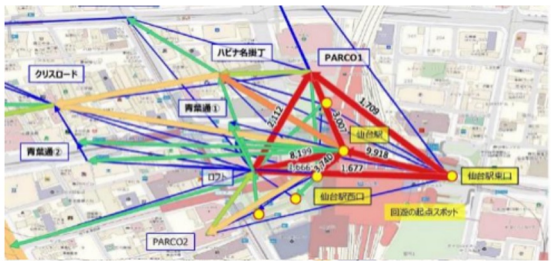
なぜペデストリアンデッキで行わなかった？

「社会実験以前から、JR仙台駅周辺ビルの再開発が先行した結果、人が駅周辺に集中しているという声が多かったんです。実際に、仙台を訪れる人の行動範囲がJR仙台駅内やペデストリアンデッキ、周辺の商業施設に集中していることが人流ビッグデータ※からも読み取れます。」

「街なかへの回遊性を高めていくことは重要ですし、すでに人が集中している場所に広場を設けても、目的である回遊性を生み出すような本質的な解決手段にはならないと考えまして。むしろ駅前にある青葉通を活かして、**ペデストリアンデッキから降りて、街なかへ踏み出してもらうような空間**が必要だと感じたからなんです。」

Webメディア・ウラロジ仙台

「　【振り返ろう】青葉通仙台駅前エリア社会実験 MOVE MOVEとはなんだったのか」より



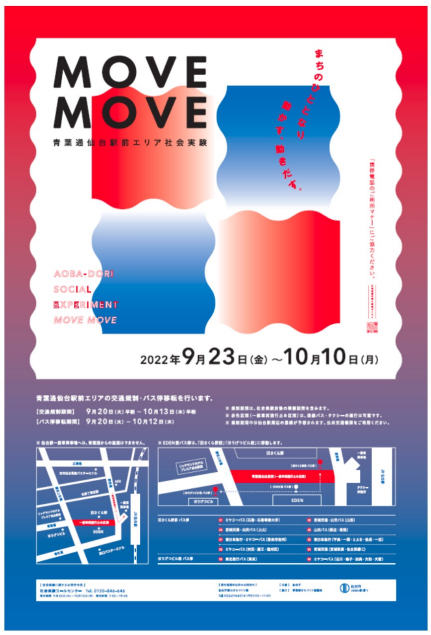
※データが全てではないものの、人流が集まっていることを示す赤い太線矢印の三角形がペデストリアンデッキ上にあります。

（上：第3回ワーキンググループ資料P15より引用）

社会実験で利活用した場所はよく見ると、車道・歩道・民地・ペデストリアンデッキを少しずつ越境した空間の使い方になっています。

交通規制告知の実施

交通規制を実施するにあたり、以下のような告知を実施しました。以下は、その一部です。



■路面バス　停留所

広瀬通駅(下り)_内

晩翠草堂前①_外

広瀬通一番町（東行）_内

錦町一丁目(下り)_内

泉館山高校入口(外回り)_歩道

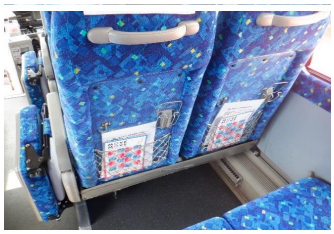
木町通小学校前(南行)_車道

■YouTube広告

■新聞紙面

■仙台駅構内　サイネージ

■長距離バス



トランジットモールとは？

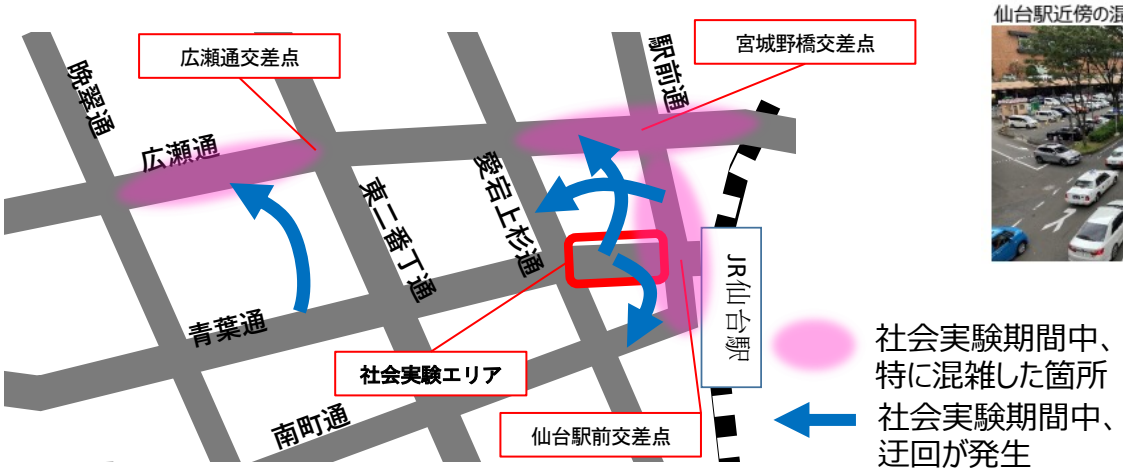
　トランジットモールは、路面電車・LRV・バスなどの公共交通のみが走行できる街路を指します。一般自動車の走行がなくなることで、車両数が制限された歩行者と共存がしやすい空間となり、歩行者が安全にゆったりと街中を歩くことができます（救急車・消防車など特別に必要な車両は走行OK）。日本では周辺の交通渋滞発生などの懸念が多く、実装まで至っていない都市も多い傾向にありますが、群馬県前橋市では実際に商店街の中をコミュニティバスのみが走行するトランジットモール化が進んでいます。

参考：「岡山市都心部におけるトランジットモール社会実験の評価と課題（岡山大学環境理工学部 正会員 阿部 宏史、建設省中国地方建設局 正会員 牧野 浩志、㈱エイトコンサルタント 正会員〇粟井 睦夫、㈱エイトコンサルタント 正会員 波多野吉紀）」

交通規制による影響について

交通影響については、「歩行者」や「自転車利用」の方からは安全性が高まったとの意見がある一方で、**「周辺道路の混雑、駅へのアクセス性悪化」**についての意見も多く寄せられました。バス・タクシー事業者からは、**「一般車の誤進入対策が必要」「バス停付近での混雑の影響があった」**、などの意見をいただきました。今後周辺の交通環境も含めた駅前エリアのあり方検討が求められます。

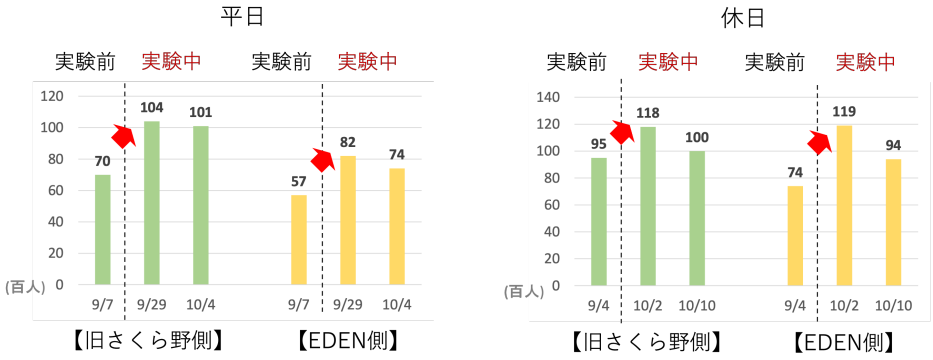
周辺エリアで発生した混雑状況



仙台駅近傍の混雑

来訪者や歩行者の変化

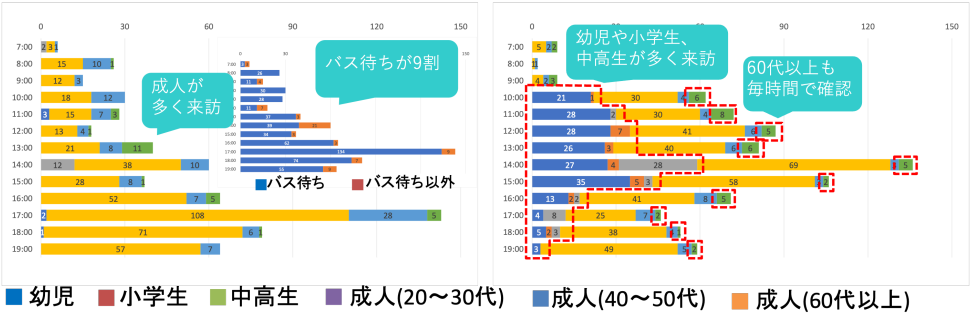
① 歩行者交通量の変化



実験前と実験中それぞれで計測を実施。実験前に比べ、歩行者交通量は平日・休日ともに増え、来訪者の年齢層が多様になる変化がありました。

② 来訪者の変化

実験前（９月４日（日））：利用者年齢【時間帯別】　実験中（１０月２日（日））：利用者年齢【時間帯別】



視点別に見た調査結果が示すこと

視点１：仙台の顔としてのエリア

回遊性を生み出していたのは公共交通・徒歩での来訪者
青葉通駅前エリアでの滞在場所設置は回遊の鍵となる？

・都心に公共交通や徒歩で来訪した方は、自動車で来訪した方に比べ立ち寄り箇所数が多く、回遊性を生み出していたことが分かります。本社会実験では、来訪者の９割が回遊しており、６割程度の方が「徒歩・公共交通」で来訪、回遊した方の手段は「徒歩」が多くをしめています。

・青葉通駅前エリアから、他エリアへの回遊状況を見ると、青葉通駅前エリア周辺が多く、利用した回遊性向上のため取り組みとしては、市中心部の「周遊マップ」や「路線バス割引（120円パッ区）」、「DATEBIKE」利用が多くなっています。

・来訪場所別の交通手段では、いずれの場所も「徒歩」であり、また回遊目的としても「買い物」が多いことから、青葉通における歩行空間拡大や本社会実験のような休憩場所等を設けることで、周辺エリアへの回遊の起点となるポテンシャルがあると考えられます。

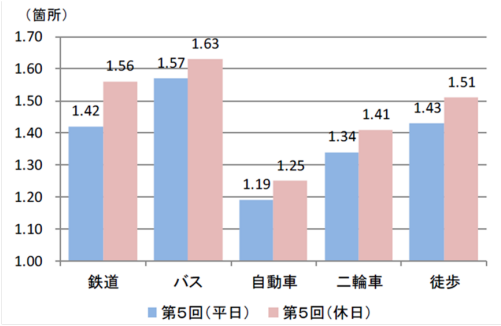
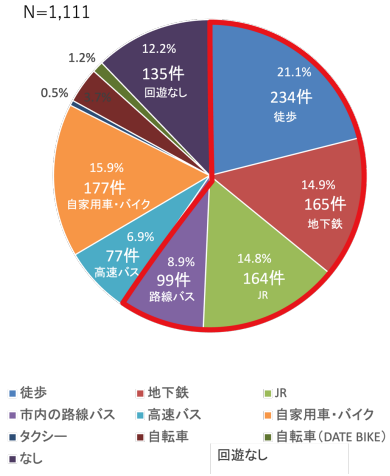
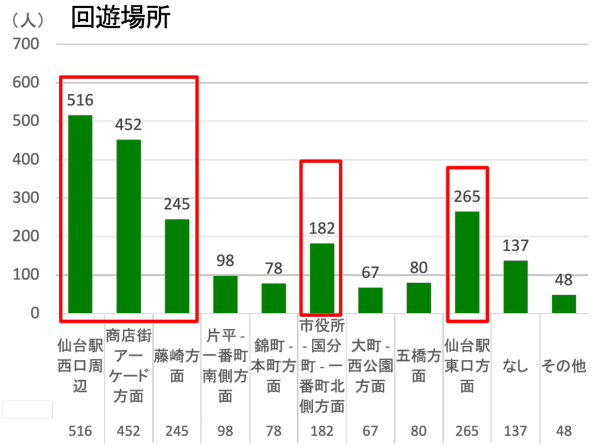


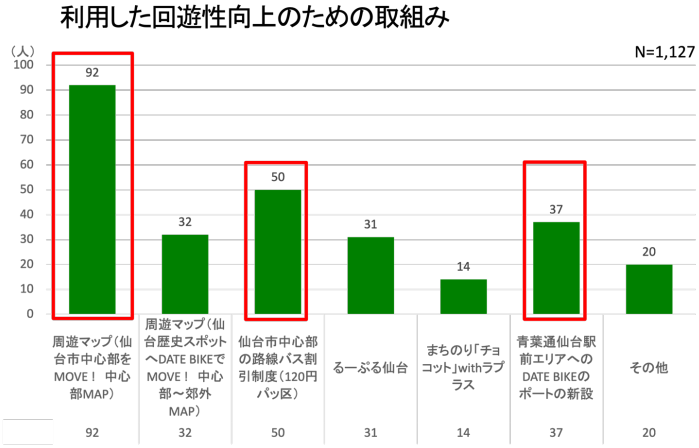
図 3-373　都心来訪手段別の都心内平均立ち寄り箇所数（私事目的）

出典：第5回仙台都市圏パーソントリップ調査（2017）3-265

■回遊有無と来訪手段







視点2：多様な活動があふれる人中心のエリア

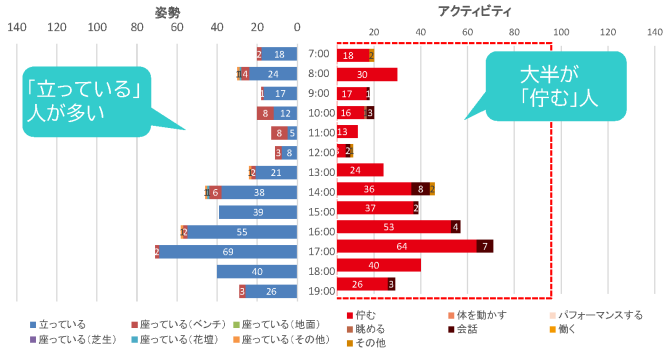
空間設置で滞在のありかたに変化が
多様なアクティビティで交流のすがたも

・普段このエリアで見られるアクティビティは「佇む」「立っている」がほとんど。社会実験期間中は「座っている」「眺める」「会話」など多様なアクティビティが生まれ、滞在のありかたに変化が見られました。

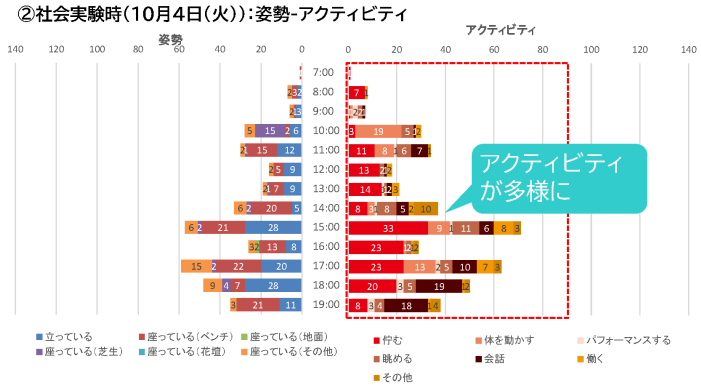
・来訪者過半数の「交流がもてた」という回答から、ストリートピアノをはじめとするコンテンツの実施により、「学生」「会社員」「主婦」「親子連れ」等を中心に活気・交流を生み、人々の成長・温かさを感じる拠点としての可能性が感じられる結果となりました。

検証①利活用空間での多様な活動種類を時間ごとに抽出（滞在者の把握）

①通常（9月7日（水））：姿勢-アクティビティ



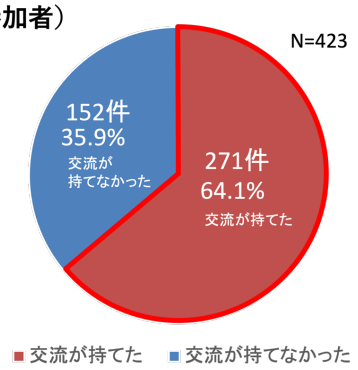
②社会実験時（10月4日（火））：姿勢-アクティビティ



目指す姿：〈出会い・交流〉コンテンツや利用空間で、人との交流機会を創出する

検証①コンテンツ等の利用により、新たな交流機会を持てたのか、把握

■コンテンツ参加による交流の機会の有無
（コンテンツ参加者）



■交流が持てたコンテンツ　※特に多い回答数（件）のものを赤字で表記

ストリートピアノ	51件	マジック	6件	Sendai Shovel	2件	ボードゲーム	1件
焚き火	25件	子連れ・子ども同士の交流	5件	よさこいイベント	2件	畳コーナー	1件
遊び場	15件	ピクニックパーク 宮城学院女子大学	5件	乗馬	2件	農産物販売ブースで市外の生産者と交流	1件
ポッチャ体験	9件	音楽	4件	縁日	2件	愛犬を連れ同士	1件
スタッフと話した	9件	move move radio	3件	三味線	2件	防災パン作り	1件
南三陸杉のブロック、ジャングルジム	8件	ヨガ	3件	アスレチック	2件		
ONE TOHOKU	6件	コマ回し	3件	Run your own way	1件		

・コンテンツ参加により、交流の機会を持てた人は約6割弱となり、コンテンツ別には「ストリートピアノ（51票）」が最も多く、次いで「焚火（25票）」、「遊び場（15票）」という結果であった。
・交流を持てた方のうち、年代・職種別には今回の主ターゲットである「20代以下の学生」や「20代～40代の会社員」が多かった。また一部「主婦層」の方も一定程度回答があった。
・一方で、高齢者の方の交流は少数であった。
・アンケート回答者1240名のうち、コンテンツ参加者は423名と3割少々と、少数であった。

視点3：エリア価値向上のために挑戦するエリア

駅前にくつろぎの空間が求められていることが明らかに
活躍や交流の機会が増えるとエリアの優位性も高まる？

・利活用空間で実現したいアイデアおよび要望は計461件寄せられ、主なターゲットであるオフィスワーカー、学生ともに「くつろげる・休憩できる空間」が求められており、特に学生にとっては「イベント開催」や「ストリートピアノ等のパフォーマンスができる場」、「交流できる場」を生み出すことで優位性を高められる可能性を確認できました。

・また、出展者からはよりにぎわいを創出していくための課題・要望が多数寄せられました。

市内会社員が利活用空間で
実施したいことを
（オフィスワーカーアンケートより抽出）

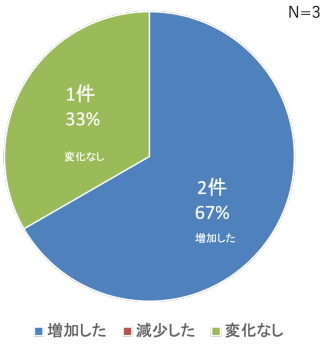
アウトドアオフィス
業務中の小休憩
イベント利用
足湯
カフェや飲食店の出展
緑地をいかした憩いの場
交通機関(バス･タクシー･乗用車)の集約化
日常的に休憩できる空間（飲食も含め）
スマホの充電スポット
自転車道の整備
休憩
くつろぎの場
Wi-Fiスポット
様々なキッチンカー

学生が利活用空間で実施したいこと
Web＆聞き取り調査の学生意見

	（件）		（件）
イベント	7	ジャグリング	1
ボッチャ体験会	2	トークショー	1
縁日	2	写真撮影	1
宮城の食のイベント	1	イルミネーション	2
販売イベント	1	ダンスパフォーマンス	1
演奏イベント	2	パフォーマンス	2
フェス	3	演劇	1
ジャズフェス	2	映画の上映	1
ビールフェスト	1	焚火	1
オクトーバーフェス	1	アート制作ワークショップ	1
マルシェ	2	朝市	1
音楽ライブ	1	家具を作るワークショップ	1
路上ライブ	1	設置する椅子を市民で作る	1
ギター等のライブ	1	バザー	1
ストリートピアノ	7	色々な人との交流（老若男女）	12
パレード	1	くつろげる･休憩	13
パブリックアート展示	1	飲食	15
公園オフィス	2	寝転がれる	3

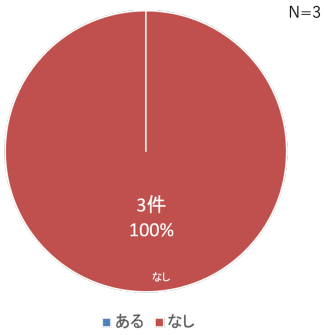
沿道店舗事業者への効果

■客層の変化



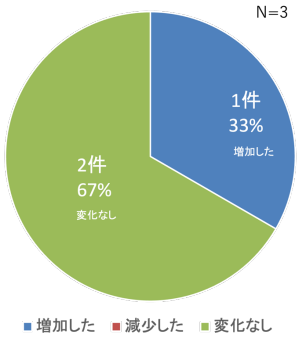
・8月比較で10%程度
・開始前と比較し30%

■混雑による来店敬遠



・この場所で交通混雑により来店者が減ることはないと思う。店前に来る人が増えることが重要。社会実験期間中の常連者は「なんかやってるね～」程度の考えであった。

■売上変化



（売上増加の要因）
・テイクアウトの増加
（利活用スペース、歩道から見えるようにテイクアウトの案内を設置。店舗は歩道を挟んで利活用スペースの前にあり、バス停の上屋等隔てるものがなかった）
・ランチタイムも営業しており、休日の家族連れ、若い世代の来客が増加

・利用客が増加した店舗や売り上げが増加した店舗も見られた。
・青葉通仙台駅前エリアの混雑による来店客の敬遠は見られなかった。

本実験開催での総括と残していくこと

「3つの視点」を軸にした振り返り

視点1／仙台の顔としてのエリア
周辺エリアへの回遊性創出や 玄関口として機能するポテンシャルを見出した

　このエリアが駅前のにぎわい・滞留空間となることで、若い世代や子育て世代、市外来訪者を中心に好印象を与えることができました。休憩できる環境を設けるなどこのエリアの取り組みは周辺エリアへの回遊の起点となるポテンシャルがあると考えられます。

視点2／多様な活動があふれる人中心のエリア
交流を生む多様なアクティビティや人中心の空間への再編

　「焚き火」を始めとした対話や交流体験のコンテンツを中心に、来訪者の多様なアクティビティを創出することができました。また利用者だけでなく、創出されたアクティビティの風景が通行人等との偶発的な繋がりを生み出したことで、歩行空間を含めた駅前エリア全体が人中心の空間に再編できる可能性があると考えられます。

視点3 ／エリア価値向上のために挑戦するエリア
「多様な主体が参画できる」という価値創出からビジョンが見えてきた

　このエリアを人々が憩え、交流できる空間にすることで、（仙台の顔として）仙台の街の魅力向上に繋がることの示唆が得られたとともに、多様な属性や世代の居場所として、多様な主体の参画を生み出すことができると考えられます。

以上から、ビジョンづくりにあたっては、将来持続的に取り組みを実施・運営していく担い手とともに、策定を進めていくことが重要と結論づけました。

全体的な振り返りと、
これからの青葉通駅前エリアのあり方検討へ向けて

＜実施の振り返り＞

・賛同だけではなく「交通混雑や実験目的が分かりにくい」という声も含め、このエリアの取り組みに対する強い関心を呼び起こすことができた。

・ペデストリアンデッキから見下ろせる「青葉通のケヤキ並木」の下、学生によるコンテンツ実施など仙台の個性、強みを生かしつつ、若い世代を中心とした多様な主体の関与によるデザインに考慮した空間の創出、交流体験に関するコンテンツの実施、ストリートピアノ等の音の演出により、多様な活動、交流、滞在を生み出すことができ、新しい魅力を生み出すポテンシャルがある。

・新しい魅力の創出としてさらなる活動、交流、滞在を生み出すには、時間帯、平休日で変化する来訪者属性を踏まえた利活用、居心地の良い空間等の創出が求められる。

・特に若い世代(10代～30代)、市外来訪者を中心に高い評価を得ることができ、「楽しい」、「嬉しい」、「驚き」といった感情により、第一印象として好印象を来訪者に与えたことは、「仙台の顔」となるこのエリアの「表情」を作り出せた。

・幼児や小学生など、普段来訪しない世代が来訪。高齢者は毎時間で確認。

＜今後のポイント＞

・春、秋など気候の良い時期のみならず、仙台の気候を踏まえ、年間を通して活動、交流、滞在を生み出していく必要がある。

・このエリアの取り組みは回遊の起点となるポテンシャルはあるが、回遊性向上については、周辺エリアとの連携が必要。

・利活用、管理運営を実施するためには、今回のようにプレイヤーだけでなく、プレイヤーをまとめる、プレイヤー間をつなげる等のコーディネートする立場、コンセプトを含めた企画、デザイン、広報等の役割を担う人材、体制を整えることが必要である。

社会実験開催後、結果的に1,856件もの声が集まりました。青葉通界隈で働く皆さんからいただいた声もまた、ビジョン検討に活かしていきます。

「青葉通駅前エリアがこうなったらいいな」から、
「やってみよう」へ。一緒にまちを動かしていきませんか。